

ディレクター日誌（活動・参加者の様子）

期 日：令和元年8月1日(木)～8月3日(土) 【2泊3日】

場 所：山口県十種ヶ峰青少年自然の家とその周辺山域（山口市阿東）

参加者：チャレンジプログラム参加児童の保護者と教育関係者9名

1日目「開会式～バックパッキング」

令和元年8月1日(木) 晴れ

十種ヶ峰青少年自然の家～神角奥

テーマ：体験の日（仲間とのアイスブレイキング）

今年度の参加者は9名で、そのうち母親4名、教職員関係者5名という構成となった。我が子をチャレンジプログラムに参加させたい、自分が体験してみたかった等、参加理由は様々であったが、縁あって出会った仲間たちとの3日間がスタートした。

はじめのつどいの後、各自が持ってきた荷物と貸出の道具をザックに詰めていく。個人装備を一通り入れた後、アイスブレイクとしてお互いの名前を覚えていくゲームを行った。少し緊張気味であった参加者の表情が笑顔に変わり、気持ちがほぐれてきたようだった。

次に、食料やその他の必要な道具を分ける作業を行った。個人の装備は自分で背負うが、共同の装備は誰が何を持つのかを決めなくてはならない。お互いに声をかけ合い、同じぐらいの重さになるよう考えながら分担し、パッキングを行う。ザックを背負うとその重さに驚きの様子である。子どもたちもほぼ同じ重さのものを背負っていることを聞き、さらに驚く。靴を履き、スパッツを装着するのにも手間がかかるが、慣れない作業にも経験者が積極的に声をかけながら取り組んでいく。

全員の出発準備が整ったところでインストラクターが声をかけ、地図の見方、コンパスの使い方をレクチャーする。地図やコンパスを持つのはナビ（案内係）の役割だが、ナビ任せにするのではなく、みんなで進む道はみんなで決めていく。全員でルートを確認した後、ナビを先頭に一列になって歩く。今日の最終目的地は神角奥であるが、まずは子どもたちも宿泊した方丈原にコンパスを合わせ、いよいよ出発だ。

歩いていく途中では、声のかけ方等、山道の歩き方についてレクチャーを受ける。方丈原を過ぎ、道路に出たところで地図を見て方向を確認する。間もなく水場に到着し、冷たくおいしい水を飲んで昼食の十種ヶ峰むすびを食べた。その後、再び出発し、子どもたちも数日前に歩いた山道を進んでいった。

神角奥に到着後は、テントとタープを設営する。インストラクターのアドバイスのもと設営するのだが、ここでも経験者を中心に手際よく設営していた。

《タイムスケジュール》

- 10：10 はじめのつどい
アイスブレイク
- 11：00 ダブルシャッフル
- 12：30 体育館発
～バックパッキング
昼食
- 16：50 神角奥着
テント・タープ設営
- 17：50 夕食準備
- 18：30 夕食
- 19：00 ベテランスタッフの話
- 19：20 ミーティング
- 22：00 就寝





夕食はクック（調理係）を中心にラーメンを作った。食料計画はあるが、自分たちの持っているものを工夫して食べてよいことを伝える。家庭とはちがい、水が限られていること、ゴミは持って歩くこと、汚れた水は廃棄できないこと等を考えながら、それぞれ仕事を分担して調理していく。ラーメンのお代わりも用意されており、率先して動いてくれる男性陣クックに対し、女性陣から喜びの声が上がった。

ラーメンをゆでた湯を活用した食後のコーヒーを飲みながら、本部スタッフのジャンボさんから初代ペアレントプログラ

ムのディレクターとして、また山口県にこのキャンプのプログラムを導入された重鎮の一人として、活動の普及に努めてきた先駆者たちの思いを語っていただいた。

夜のミーティングでは、今日一日を振り返っての語り合いをした。それぞれがどんな思いでこのキャンプに参加したか、どんな気持ちで歩いていたかを伝え合うことで、同じ活動をしていても一人ひとりの感情や気づきは違うことに改めて気づく。その気づきがまた新しい気づきを生み出し、明日の活動につながっていく。感想の中には、「思っていたよりも重たくて、暑くて、草もすごくて、大人でも大変なのに、それをやっている子どもたちを尊敬する」といった、キャンプに参加している子どもたちへの思いが多くあった。それを実感することがこのプログラムの意義のひとつでもある。また、みんなのきつかったとの感想を聞いて、「歩いているときは周りの人がきつかったようには見えなかった、だから自分もしんどいと言ったらだめかと思っていた」と伝える参加者がいた。そのことから、みんなきつなくてもがんばっていたんだ、明日は心の声を出していこうとの思いの共有ができた。明日の活動に向けてルート等の確認をし、みんなで大切にしたいものとして、それぞれが意見を交わす中で、「9人で言いたいことを言い合って、笑顔で山頂アタック！」を掛け声に歩くことになった。明日の起床・出発時刻を確認し、役割分担を決めミーティングは終了した。



2日目 「ファイナルツアー〜ピークアタック〜 ラストナイトミーティング」

令和元年8月2日(金)

神角奥〜十種ヶ峰山頂〜十種ヶ峰青少年自然の家
テーマ：覚醒の日（実行力と協調性）

2日目も晴天。5時に起床だが、テント内が暑くて熟睡とはいかなかったようだ。朝一番に水を飲んだ後ストレッチをし、朝食を準備し食べる。テントやタープの撤収、パッキング等てきぱきとこなし、7時には出発。昨晚のミーティングで共有した思いを胸に、ファイナルツアーが始まった。

インストラクター、サブインストラは様子を見守りつつ、グループに任せて少し離れて歩く。ナビを中心にみんなで地図を見合い、ルートを確認しながら藪をかき分け、助け合い、手を取りながら力強く進んでいく。休憩後の出発の際には、昨晚決めた掛け声が元気よく聞こえてきた。

《タイムスケジュール》

5：00	起床
6：00	朝食
6：30	片付け、準備
7：00	神角奥出発
9：40	十種ヶ峰山頂到着
10：30	下山開始
12：00	十種ヶ峰青少年自然の家着
12：30	昼食
13：00	クリーンナップ
14：00	ソロ
15：30	入浴
16：50	夕食準備
17：30	夕食
21：00	ラストナイトミーティング
22：00	個人懇談&各自振り返り 〜就寝



9時40分には、十種ヶ峰山頂に到着！本部スタッフが間に合わないほどの速さだった。お互いに喜びを分かち合いながら、冷たい水を頭からかけ合い、笑顔があふれる。

自然の家で昼食をとるために、10時30分下山開始。自然の家では、子どもたちがクリーンナップの真っ最中。出会わないように気をつけながら到着した。

到着後、昼食。食後のコーヒーが疲れを忘れさせてくれた。その後クリーンナップ開始。使った道具に感謝しつつ、テントやタープを干し、ザックやスパッツ、フードバックなどの汚れを落として乾かす。予定よりも早く到着し、クリーンナップも一段落したため、ソロの時間をとることができた。思い思いの場所に分かれて、一人の時間を過ごす。突然の雨にソロは中断してしまっただが、貴重な時間となった。お風呂に入った後、夕食の準備。今日も食材を工夫した献立で、ちらし寿司、すまし汁、サラダ、フルーツの盛り合わせと、どれもひと手間かけてありお腹も心も満たされた。



夕食後は、この後帰宅しなくてはならない2人に対して、先にサンクス（感謝の言葉を伝え合う活動）を行うことにした。ラストナイトミーティングは、自然の家の中だがあえて電気は使わず、外でのミーティングのように行う。ソロ中に全員にあてたサンクスを考えていたという参加者もあり、短いキャンプであったが一人ずつに向けてメッセージを伝えていく。サンクスを行っているときの空気はとても温かい。ありがとうと言うためには、その相手をよく見ていなくてはできない。サンクスにはそんな意味もある。今日を振り返った感想も伝え合い、きつかった中にも達成感や仲間への感謝、自分自身への気づき等を語り合った。

その後、保護者としての参加者はチャレンジキャンプのスタッフとの懇談会を行った。我が子のがんばりを聞き、明日子どもたちに会うことがより楽しみになったようだった。懇談の時間を生か

して、他のメンバーはプログラムの感想を書いたり、お互いのバンダナにメッセージを書き込み合ったりした。



3日目「ファイナルミーティング～閉会式」

令和元年8月3日(土)

十種ヶ峰青少年自然の家～各自宅へ

テーマ：旅立ちの日（現実での実践）

最終日はこれまでより少し遅めの6時起床。朝食は、自分で好きなものを挟んで食べるセルフサンドイッチだ。食器等残りの道具のクリーンナップと自然の家の掃除を手分けして行った。

プログラム最後の活動は、2泊3日をふり返るミーティングだ。その中で、子どもをチャレンジキャンプに参加させるついでに自分も参加したが、子ども以上に自分が成長できた。私をここに来させるために、このプログラムがあったと思う、と話された方がおられた。子どものためにと欲してしたことは、本当は自分の成長のためだったというのは日々の子育てについても言えることだろう。子どもや自分と誠実に向き合っておられる姿がとても素敵だった。

解散式では、お互いにメッセージを書きこんだバンダナを、インストラクターが一人ずつに手渡した。共に過ごした時間は決して長くはないが、お互いを思いやり、信頼し、助け合える仲間は素晴らしかった。



2泊3日のキャンプは今日で終了だが、メンバーそれぞれの場所でまたチャレンジが始まる。背負う荷物が重たく感じて下ろしたくなる時もあるだろう。どの道を歩こうか悩む時もあるだろう。行き先が見えずに心が折れそうになる時もあるだろう。しかし、そんなときはこの48時間で手に入れたものを思い出して、家族や職場というチームで力強く一歩を踏み出して行ってほしい。そんな思いを込めて、スタッフ全員で送り出した。

「行ってらっしゃ～い！！」

《タイムスケジュール》

- 6：00 起床
- 6：30 朝食
- 7：00 片付け 掃除
- 8：30 ミーティング
- 9：00 閉会行事
- 9：30 解散

